

## 令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	36	学校名	静岡県立静岡東高等学校	校長名	宮田 治幸
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア 授業改善 と確かな 学力の向 上	教員の授業参観 年3回以上 100%	目標達成率は91.7%で、100% まであと一息であった。	A	授業実践力の向上が生徒の学 習意欲、学力アップに直結す るため今後も教員相互の授業 参観や外部機関における教科 指導セミナーへの参加を積極 的に進めていきたい。	教務 研修 情報 教科
	「授業をとおして新たな見方 考え方や知識技能を身に付け た」と答える生徒の割合 全科目で80%以上	科目、学年に分けて実施した アンケートで56の調査集団の うち55の集団で目標を達成で きた。	A		
	教員の教科指導セミナー 参加者人数 5人以上	主要5教科で1名ずつ長期休 暇を活用して教科指導セミナ ーに参加した。	A		
	1、2年家庭学習時間： 平日1日平均最低90分、 目標3時間以上	1年は目標を達成し、10月は 3時間32分まで伸ばした。2 年生は各回とも1時間30分程 度で目標の達成はできなかった。	C	学力向上には学習習慣が身に ついていなければならない。 学習時間の二極化（生徒間差） が問題。教科バランスと集中 力養成が課題。	進路 学年 教科
	1、2年11月進研模試 偏差値平均55以上	1年は56.5、2年は55であっ た。	A	2年生は7月の57から下がっ た。ボリュームゾーンの成績 の向上が課題。	
	大学入学共通テスト平均点 全国平均+5%以上	本校の平均点は全体で652点 （文系661点、理系644点）。 文理別の推定点との比較で は、文系は+41点、理系は+ 11点であり、文系は目標の達 成ができたが理系はできなかつ た。	B	苦手科目をいかに攻略するか が課題だ。共通テストに移行 後、思考力をより強く求めら れている。日頃から、考える 習慣が身につくような教授法 を各教科で開発したい。	
	学習支援プラットフォーム （Classi、C-learning等）の 学習指導への活用	1、2年はC-learningのみと なり、3年はClassi、 C-learningの併用とした。	B	C-learningは連絡用ツールと してはとても優れているが、 学習支援という観点では使い 切れていない。今後の検討が 必要。	
	英語外部検定（GTEC等「学び の基礎診断」） CEFR B1 レベル60人以上 A2 レベル500人以上	CEFR B1以上が135人、A2が 425人であった。	A	さらにCEFR B1の人数が増え るよう指導する。	
	新教育課程共通テストに対応 する学習指導	新教育課程の理念を理解し、 日常の授業に反映できるよう 取り組んでいる。	A	共通テストに対応する教育課 程の検証を進めたい。	教務 進路 学年 教科
	3年間を見通した進路指導計 画の検証と改善	次年度より実力テストを廃止 し、学びの基礎診断を実施す ることにした。	A	今後も定期テストのあり方 について検討していきたい。	

様式第3号

	「社会の様々な課題の解決に向けて、自ら主体的に関わろうと思う生徒」 80%以上	84.9%の生徒が主体的に関わっていると回答した。	A	探究学習の成果が表れている。何事にも常に課題意識を持って取り組める姿勢を養いたい。	探究 学年 教科
	授業への取組状況姿勢について、「自ら進んで取り組んでいる生徒」 70%以上	56.8%の生徒が自ら進んで取り組んでいると回答した。また、32.7%の生徒が教師の指示に従って取り組んでいると回答した。	B	前向きに授業に取り組んでいることがうかがえる。より主体的に取り組む姿勢が身に付くよう指導していく。	教科
	授業や探究学習でのICT活用の推進 協働的な学びをすすめるための個別最適な学びにおけるICT活用の推進	百問繚乱による採点と生徒へのフィードバックは授業改善及び観点別学習状況の評価を円滑に進めることができている。	A	引き続き、各教科で授業における端末活用の実践を積み重ねていきたい。	教務 情報 探究 教科
イ 志の育成 と進路目 標への挑 戦	大学模擬授業生徒満足度 90%以上	「興味深かった」の回答が9割あった。	A	進路を考えるよいきっかけになった。	進路 学年
	大学訪問生徒各自の目標達成率 100% (オンライン説明会参加も含む)	夏休みの宿題としてオープンキャンパスへの参加もしくは夢ナビ動画の視聴を課した。	A	今後とも可能な限りオープンキャンパスに参加させる。	
	大学入学共通テスト 5教科型受験率 80%以上	全教科受験率は全体で 78% (文系 67%、理系 91%) であり、わずかに下回った。	B	目標達成のためには文系生徒の国公立大学志望を増やすしかない。首都圏の私大と地方の国公立大の魅力の伝え方を工夫したい。	
	ハイレベル模試受験者数 学年各 30 人以上	1 年は 13 人、2 年は 46 人だった。	C	難関大学の志望者が増加するようなアピールを続ける。	
	県内国公立大学合格者数 60 人以上 国公立大学現役合格者数 卒業生の 50%以上 難関国公立大学 (※1) 合格者数 10 人以上 難関私立大学 (※2) 合格者数 90 人以上	県内国公立大学合格者数 63 人 (現役) 国公立大学現役合格者数 52.3% 難関国公立大学 (※1) 合格者数 7 人 (現役) 難関私立大学 (※2) 合格者数 92 人 (現役)	A	引き続き、生徒の希望進路の実現に向けて計画的に取り組んでいきたい。	
	静岡大学、静岡県立大学、常葉大学との連携の有効活用	各大学との連携により、様々な講座を開講することができた。	A	引き続き連携し、各講座の充実と参加者数の増加を目指す。	教務 探究 ※3
	静岡大学理系実験講座 参加者数 20 人以上 満足度 90%以上	静岡大学理系実験講座の参加者は 20 人、満足度は 100%であった。	A	理科に対する興味を喚起することができた。	
	「専門教養講座」の単位取得者 5 人以上	今年は静岡県立大学と常葉大学での開講となり単位取得は 2 人であった。	B	生徒への周知方法の改善と、大学との連携を密にし、5 人以上の単位取得を目指す。	
	SDGs Terakoya 参加者の満足度 90%以上	事後アンケートでは全員が「満足した」と回答した。	A	1 年生の参加者が少なかった。全学年から参加者を募りたい。	
	生徒個人面談回数 年間 5 回以上	年間 5 回以上の面談の機会を設定できた。	A	面談内容についても進路課との連携を強化する。	教務
多様化する入試制度について	年内入試の増加、新課程によ	A	今後とも各種セミナー等で情	進路	

様式第3号

	の研究	る共通テストの実施など、制度の変更に適切に対応した。		報を得たうえで検討を続ける。	
	修学旅行生徒満足度 90%以上	事後アンケートではいずれの研修も9割以上が「満足した」と回答した。	A	今年度の取り組みや反省を参考に企画する。	2年
	SDGs等に関する外部コンテストプレゼンテーション大会に参加する生徒 30人以上	外部コンテスト等に参加した生徒45名	A	希望はしたが参加できなかった生徒も50人近くいるので、より多くの生徒の希望を実現させたい。	探究
ウ 自主自律の精神と豊かな人間性の育成	遅刻生徒数 1日平均全校で5人以下	1日平均12.4人	C	新型コロナ以降、遅刻者に限らず、欠席者も含め大幅に増え続けている。効果的な対策を検討していきたい。	教務 学年
	特別活動の活性化と生徒主体の運営力の育成	生徒会や専門委員会で新たな企画・運営を行った。	A	引き続き取り組んでいく。	生徒
	東陵祭生徒満足度 80%以上	東陵祭生徒満足度 93.7%	A	校舎改築に伴う施設の制限への対策。	
	「自ら挨拶をしている」と答える生徒90%以上	91.0%の生徒が自ら挨拶をしていると回答した。	A	引き続き挨拶の大切さを訴えていきたい。	
	各部活動の目標達成率 80%以上	各部の目標達成率 81.0%	A	各部の実態に合わせた目標の設定と活動への満足度の向上を目指す。	
	部活動活動時間と下校時刻の順守	順守できた。	A	引き続き時間を意識した行動を促していく。	
	情報モラル講座の実施、関連の生徒指導0件	情報モラル講座を6月に実施。	B	情報機器に振り回されて主体的な生活はできていない。	学年 生徒 ※4
	文化教室生徒満足度 80%以上	生徒アンケートの「大変良かった」と「良かった」の合計は97%であった。	B	次年度は音楽鑑賞となるが、適切な内容を選定することができている。	図書
	ビブリオバトルの実施	計画通り実施することができた。	A	例年通り実施する。	
	図書館の貸出本冊数 12,000冊以上	引越しの影響もあり、貸出本冊数は9,000冊を超える程度であった。	B	仮設校舎から遠い1年生にいかにか図書館へ足を運んでもらうかを考える必要がある。	
図書館利用のない生徒への働き掛けの工夫	様々な働きかけや広報活動を行っているが1冊以上本を借りたことのある生徒の割合は50%を超えられていない。	B	引き続き図書館の利用を促進する方策を考える。		
エ 心身の健康と命を守る教育の推進	生徒交通事故件数 10件以下	交通事故22件	C	事故件数、カード発行ともに減少せず。	生徒
	重大な生徒交通事故件数0件	重大事故はなかった。	A	引き続き、交通安全指導に取り組みつつ、事故防止のための呼びかけを強化する。	
	自転車指導警告カードの交付を受けた生徒への指導	カード受領者は担任に申告し枚数に応じた指導を行った。	A		
	交通安全街頭指導への保護者参加	校内工事の関係もあり、PTA役員のみ参加とした。	B		
	「ほけんだより」の発行回数 5回以上と発行方法の工夫	予定通り発行し、生徒への啓発活動ができた。	A	マラソン大会前の救急救命講座の実施と生徒参加の検討。	保健

様式第3号

	思春期講座等の保健教育（集団指導）の実施	薬学講座、熱中症講座等開催し情報提供することができた。	A	思春期講座の実施、性の多様性などの啓蒙活動。	
	グループエンカウンター（1年生）の実施	各クラスに事前に指導案を提示し実施することによって、年度初めのクラス経営の円滑化に資することができた。	B	全クラスで実施できたが、実施方法が様々あるので、より本校にとって適切な実施形態を考えて精選していきたい。	教育 学年
	セラブラスの実施と活用 全学年	5月中旬に全学年を対象に、長期欠席中の生徒以外はすべて実施することができた。	B	検査結果を知ることにより生徒理解が一定程度深まった。	
	相談室連絡会の定期開催により、情報や課題の共有及び保護者生徒への適切な支援の実施	「相談室連絡会議」の機能を十分に活用することにより、早期の情報把握を達成できた。	A	「相談室連絡会議」の機能を十分に活用することにより、個々の「生徒の課題や問題点を把握し一定の成果を上げることができた。	
	丁寧な生徒観察と早めの声掛けを実施し、関係職員やSCとの情報共有等、困難を抱えた生徒に対する組織的な支援の実施	SCと関係職員との連携により課題を有する生徒の適切な支援を図ることができた。	A	SCの困難を抱えた生徒への支援活動を効果的にするため組織的な活動ができた。	
	特別支援学校のセンター的機能の活用	県の特別支援研修や地域研修会に参加した職員と関係職員の情報共有ができた。	A	教員間の生徒理解に資することができた。	
	地域防災訓練への生徒参加率80%以上	地域防災訓練への生徒参加率 1年生：46% 2年生：1% 3年生：17%	C	目標を達成することはできなかった。防災訓練の内容も地域によって違いがあるため、来年度以降、地域防災訓練のあり方についても検討していきたい。	
	一斉メール配信を活用した安否確認訓練の実施	情報課との連携のもと、4月の訓練時に実施。	B	安否確認の実施回数について、検討していきたい。	総務
	「心の教育」への保護者参加55%以上 学年保護者会への保護者参加80%以上 東陵室ボランティアへの保護者協力	「心の教育」への保護者参加52.2% 学年保護者会参加率は目標を達成できた。 休日東陵室開放53回中、ボランティア延べ93人	A	保護者が参加する行事については事前に日程の周知を徹底する。 募集期間や方法について検討する。	総務 学年
オ 積極的な 広報活動	土曜公開来校者数 延べ1,600人以上 土曜公開来校者満足度 90%以上	2,000人以上が来校し、満足度は98.7%であった。	A	教員の負担軽減に配慮しつつ、本校の魅力をアピールする機会として継続していく。	管理職
	土曜公開に向けての校内美化点検の実施	公開前日の点検と、当日朝清掃を毎回実施。 クレーム等はなし。	A	仮校舎の分担、清掃方法の検討。	保健
	学校ホームページやソーシャルメディアでのタイムリーな情報発信と週2回以上の更新	ソーシャルメディアでのタイムリーな情報発信ができた。 (毎日更新できている)	A	今後も継続的に情報発信していく。	情報 部活動

様式第3号

	学校ホームページやソーシャルメディアでの各部活動の活動報告 学期1回以上	複数の部活動がソーシャルメディアを利用しての活動報告を実施している。	A	部活動の非公式アカウントを公式アカウントへ移行できた。	
カ 業務改善 と働きや すい職場 づくり	事務室窓口へのクレーム件数 0件	窓口へのクレームは無かったが電話での問合せは数件あった。	A	引き続き丁寧な対応を行っていく。	事務室
	施設設備等の不具合による事故 0件	不具合による事故は無かったが施設等が老朽化しており不良箇所を順次修繕対応した。	A	事故が無いように、迅速な対応をしていく。	
	保健室や職員室の共用スペース等の片付け 校舎建築移転に向けて、計画的に不要品の処分と整理	不要品処分、仮校舎への用具等の移転など、計画的に問題なく実施できた。	A	今後も必要なものの整備や不要品の整理等検討を継続。	保健 管理職
	「信頼できる先生がいる」と答える生徒 80%以上	89.6%の生徒が信頼できる先生がいると回答した。	A	安心して学校生活を送れる環境づくりを大切にしていく。	管理職 運営委員 全職員
	コンプライアンス通信を利用した研修の実施	職員会議で定期的にコンプライアンス通信等の資料を配布し、研修する機会を持った。	A	不祥事や事故を未然に防ぐよう、継続的に取り組む。	
	Google アカウント等を利用した情報共有と意見交換の実施	主に会議資料の共有や緊急連絡等に利用し、ペーパーレスや即時性のある対応が可能になった。	A	引き続き効果的な利用方法を検討していく。	
	校務分掌や部活動における校務整理	各課、部の課題を関係者で共有し、それぞれに解決策を検討した。	B	人数の少ない課へのフォロー体制を検討する。	
		各種調査、教材研究等における ICT の積極的活用と校務の効率化	調査は概ねクラウドを活用して実施できた。書類やプリントをデータで配信するなど校務の効率化ができている。	B	ICT を活用する中で、Google Classroom との併用による煩雑さやスレッドの乱立などの問題点も見えてきた。
キ 仮設校舎 の運用と 新校舎建 築に関わ る業務の 遂行	仮設校舎の運用及び新校舎（施設設備配置、諸室配置等）についての情報共有及びそれに対する意見や要望の集約 県教育委員会や施設管理担当部署への意見や要望の伝達と情報交換 教育の質を維持するための施設等の使用計画の検討及び作成	引越しや解体工事のスケジュールの説明を行い、意見や要望の集約を行った。 また、)校舎建替に関する大小様々な問題について、必要に応じてワーキンググループで検討調整を行い、校舎建替検討委員会での承認を得て、職員会議に諮った。	A	今後は、建築工事が始まっていくので、漏れがないように進めていく。 これから多くの課題を解決して、対応していかねばならない。先行事例の情報を生かし、よりよい校舎建築を実現したい。	管理職 事務室 ※5
	一足制の実施に伴い、先行事例を活用した校内清掃の新たな体制整備	一足制は浸透し、清掃方法も確立できた。 清掃用具、置き場等設置できた。	A	職員、委員会からの清掃に関する聞き取りを実施し、清掃方法や用具充実に反映させたい。	保健
ク 時代の要 請に応え る教育の 推進	外部専門機関や地域との連携による探究的学習の充実と持続可能な形での実施方法の検討 静岡県立大学との連携による探究的学習への参加者数	静岡県立大学との連携事業参加者 SDGs 相談会 24 人 SDGs Terakoya25 人	A	探究学習のテーマを軸に多くの生徒が県立大学との連携を活用できた。	探究 教科

様式第3号

	(SDGs 相談会等) 延べ30人以上				
--	------------------------	--	--	--	--

- ※1 北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州、東京科学、一橋、神戸、医学部医学科
- ※2 早稲田、慶応、上智、I C U、東京理科、学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政、関西、関西学院、同志社、立命館
- ※3 理系高大連携推進委員会
- ※4 いじめ防止対策委員会
- ※5 校舎建替ワーキンググループ、校舎建替検討委員会